

都道府県名

佐賀県

## 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鎮西町立打上小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	22	25	19	29	33	25	2	155	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

自ら学び、確かな学力を身につける子どもの育成

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

## 全学年・算数

学年、学級内での児童の理解状況に差が出やすい教科であり、現状では児童の実態や要求に応じた指導が十分ではないため。

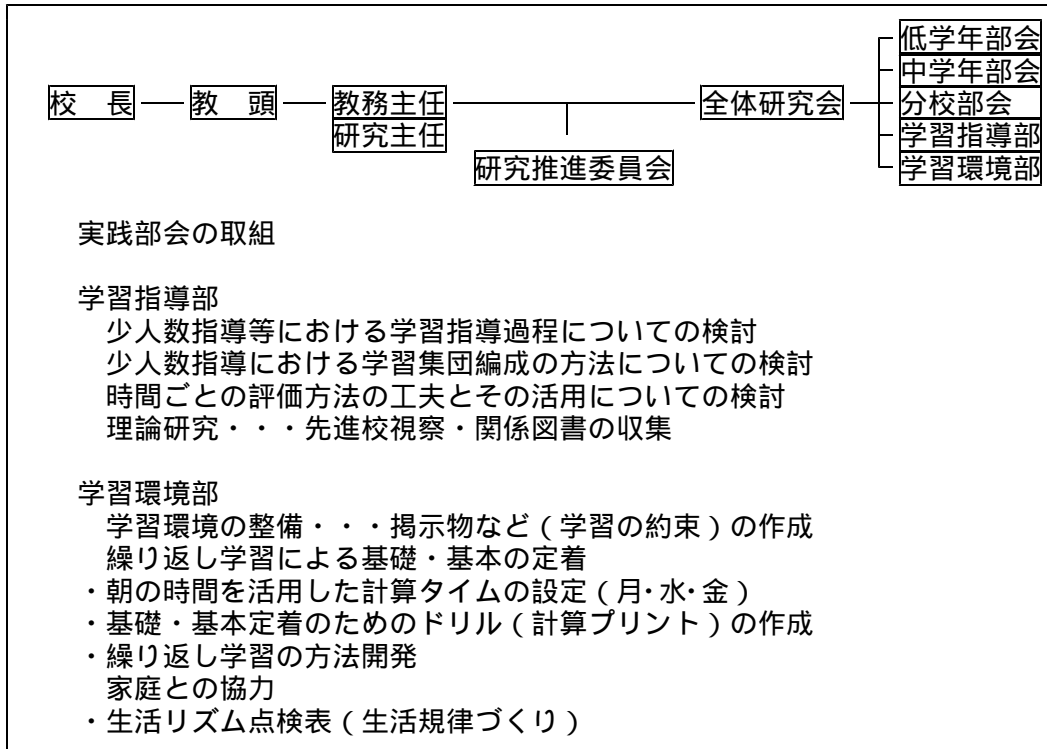
## (2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p><b>テーマ</b> 少人数指導などのきめ細やかな指導を効果的に行うための方法を探る。</p> <p><b>研究の見通し</b> 児童の実態や要求に応じた授業を構築することにより、基礎・基本の理解を深めるだけでなく、自ら学ぼうとする児童、つまり「確かな学力」を身につけた児童が育っていくだろうと考える。</p> <p><b>研究の内容</b> 少人数指導等における教師の役割分担や効果的な学習集団の構成法、時間ごとの評価方法の工夫とその活用を行う。</p> <p><b>研究の方法</b> 全学年の算数科において習熟度別少人数指導等を学習内容に応じて効果的に設定し、工夫改善を行う。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p><b>テーマ</b> 児童の実態に応じた効果的な少人数指導のあり方を探る。</p> <p><b>研究の見通し</b> 児童の実態や要求に応じた授業を構築することにより、基礎・基本の定着を図るとともに数学的な考えを深めることのできる児童、つまり「確かな学力」を身につけた児童が育っていくだろうと考える。</p> <p><b>研究の内容</b> 少人数指導の効果的な取り入れ方の工夫（単元や課題に応じた少人数指</p>
----------------	--

導などの取り入れ方とグループ編成)を行う。  
 研究の方法  
 全学年の算数科において習熟度別少人数指導を学習内容に応じて効果的に設定し、工夫改善を行う。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

朝の時間を活用した計算タイムを設定し、基本的な計算能力の向上に努めてきたので児童の計算の正確さやスピードが増してきた。  
 例・・・百マス計算、エレベーター計算、全学年の復習計算 など

児童の実態(要求)から1クラスを2クラスに分け少人数指導をしたので、自分のペースで学習したいと願っている児童の欲求に応えることができた。指導後のアンケート結果90%以上の児童がよかったと答えていることから少人数指導による授業が児童の実態に合っていたことがわかった。  
 児童の声から  
 ・人数が少ないから早くできたし、よくわかった。  
 ・自分のペースにあっていった。(質問が気軽にできるようになった。)  
 ・発表がたくさんできた。  
 ・サイコロゲームなど楽しくできた。  
 ・ゆっくり勉強したから、算数が楽しくなった。 など

少人数コースに分かれて、それぞれのコースにあった授業内容の工夫をしたので児童は意欲的に学習に取り組むことができた。  
 例・・・1. 下位グループの児童には、ゲーム的な要素を取り入れ楽しみながら習熟を図る方法を取り入れた。  
 2. 具体操作を取り入れ、体感を重視した授業を取り入れた。 など

加配教員に加えて級外職員も対応して全学年の算数に入ったので、一人のときよりも教材・教具の工夫はもとより授業の進め方なども工夫ができ、よりきめ細やかな授業を行うことができた。

自己診断カードなどを活用することで、児童の意欲を高めることができた。また、つまづいている児童への対応指導がすばやくできた。

少人数指導においては、個々の教師の力量がより問われることに気づき、算数科指導法についての教師の研究意欲が高まった。

## 2. 今後の課題

- ・ 少人数指導の多様な取り入れ方を探る。(課題別グループ、興味・関心別グループなど)
- ・ 少人数指導を担当する教師の技術・技能のレベルアップを図る。
- ・ 低学年における少人数指導の効果的な指導方法を探る。
- ・ 定着のための多様な方法を探る。(環境整備、家庭との連携など)

## 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 5月上旬に知能検査と学力検査(算数)を行って全校児童の実態をつかみ、指導の重点を絞り込む。
- ・ 朝の時間に繰り返し学習の時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 新しい単元に入る前に事前テストを行って児童の実態を把握し、実態に応じて復習を行うことによりレディネスの調整を図る。
- ・ 1月末に学力テスト(算数)を行って5月と比較し、児童の学力の変化を把握する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 公開授業研究会の実施  
7月2日 第1回公開授業研究会 4年 小数(少人数)  
10月9日 第2回公開授業研究会 5年 小数のかけ算・わり算(少人数)
- ・ 研究成果のHPによる情報発信 など

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  TTによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無